ま と め

今回見つかった堀切・竪堀などからは、遺構の年代を示す遺物は出土していません。しかし、斜め方向の堀が6世紀代の古墳時代の石列を破壊し、竪堀が埋まった後の表土近くから17世紀前半と考えられる天目茶碗が出土していることから、6 世紀以降、16 世紀以前に築かれた遺構といえます。さらに、堀切・竪堀の構造や地理的な位置などから考えれば、元亀元年(1570)6月の姉川の合戦直後に織田信長による佐和山城攻めに際して築かれたものである可能性が考えられます。

信長の家臣であった太田牛一による『信長公記(しんちょうこうき)』には、同年 7 月に佐和山城に籠る浅井氏家臣の磯野員昌(いそのかずまさ)を、東西南北 4 つの取出(砦、現在では東：丸山城、北：物生山城、南：里根山城、西：彦根城に比定されています)と「鹿垣(ししがき)」を築いて包囲したことが記されています。その結果、員昌は翌元亀2 年 2 月に降伏し、開城に応じます。

今回見つかった堀切・竪堀は、『信長公記』にある北の城に比定される物生山城の西側にあたることから、佐和山城攻めの際、敵兵の進入を阻むために築いた「鹿垣」の一部と考えられます。包囲による攻城戦は、包囲線を築く労力を選んで兵力を温存し、相手の降伏を待つ戦い方です。こうした戦い方は、その後信長の城攻めの常套手段となり、より強固な包囲線を築くようになって豊臣秀吉にも引き継がれていきます。今回見つかった堀切・竪堀は、信長による佐和山城攻めの遺構を発掘調査によって明らかにしたものとして、初めての事例となります。さらに堀切から南へ続く尾根にみられる平坦地等の状況が明らかになれば、今回見つかった堀切・竪堀の意味がさらに明確になると考えられます。

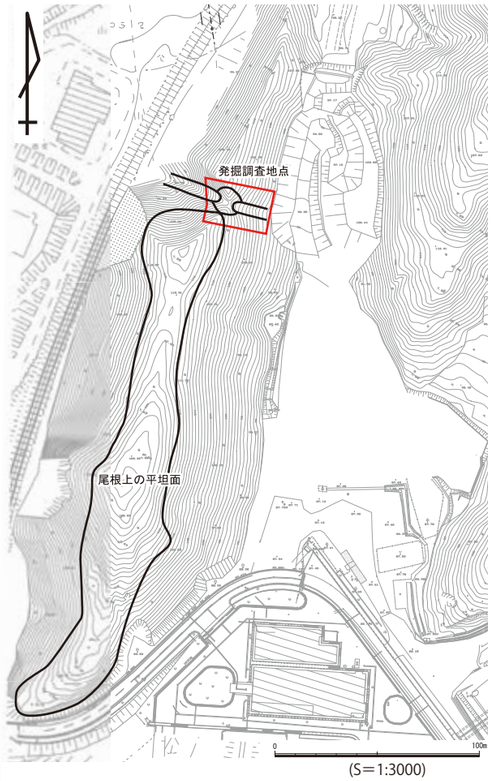


図 3　調査地周辺地形図

古墳時代の石列から出土した須恵器高坏

竪堀埋土上層から出土した天目茶碗

松原内湖遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 27年 (2015年) 1 月 25 日（日）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

調 査 の 概 要

当協会では、国土交通省滋賀国道事務所からの依頼により、国道 8 号米原バイパス事業に伴う松原内湖遺跡の発掘調査を、平成 26年 4 月から 8,000㎡を対象に実施しています。すでに調査が終了した地区から出土した鎌倉時代末の年号をもつ巻数板(かんじょういた)については、平成26年12月に発表・公開したころです。

今回、新たに丘陵部の調査区において、戦国時代の城郭施設（堀切(ほりきり)・竪堀(たてぼり)など）を発見しました。この城郭施設は、従来存在が知られていなかったものです。当地域周辺には、佐和山城や物生(むしやま)山城といった戦国時代の山城・砦跡が点在します。これらと関連するものと考えられます。

図 1　松原内湖遺跡周辺中世城館分布図

調査の成果

戦国時代
堀切１基・竪堀１基・堀１基・溝３本・土坑２基

古墳時代
石列１基　　（1月 13日現在 ）

調査前（一部伐木後）

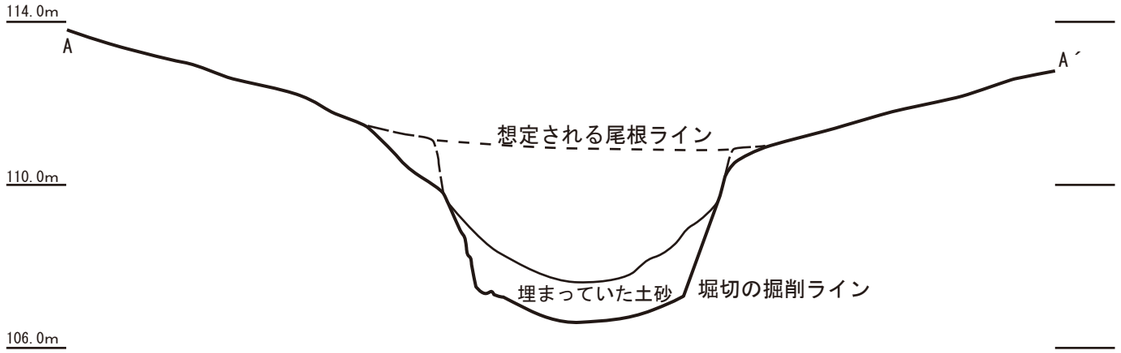
溝（幅約0.3m ）

土坑（約1.2mの方形）

堀（斜め方向）

- 長　さ：約7.3m
- 幅　：約3.0m
- 深　さ：2.0m以上（調査中）
- 特　徴：掘削は垂直に行い、底面は階段状になります。古墳時代後期（6 世紀代）の石列を壊しています。

堀内土砂堆積状況（調査中）



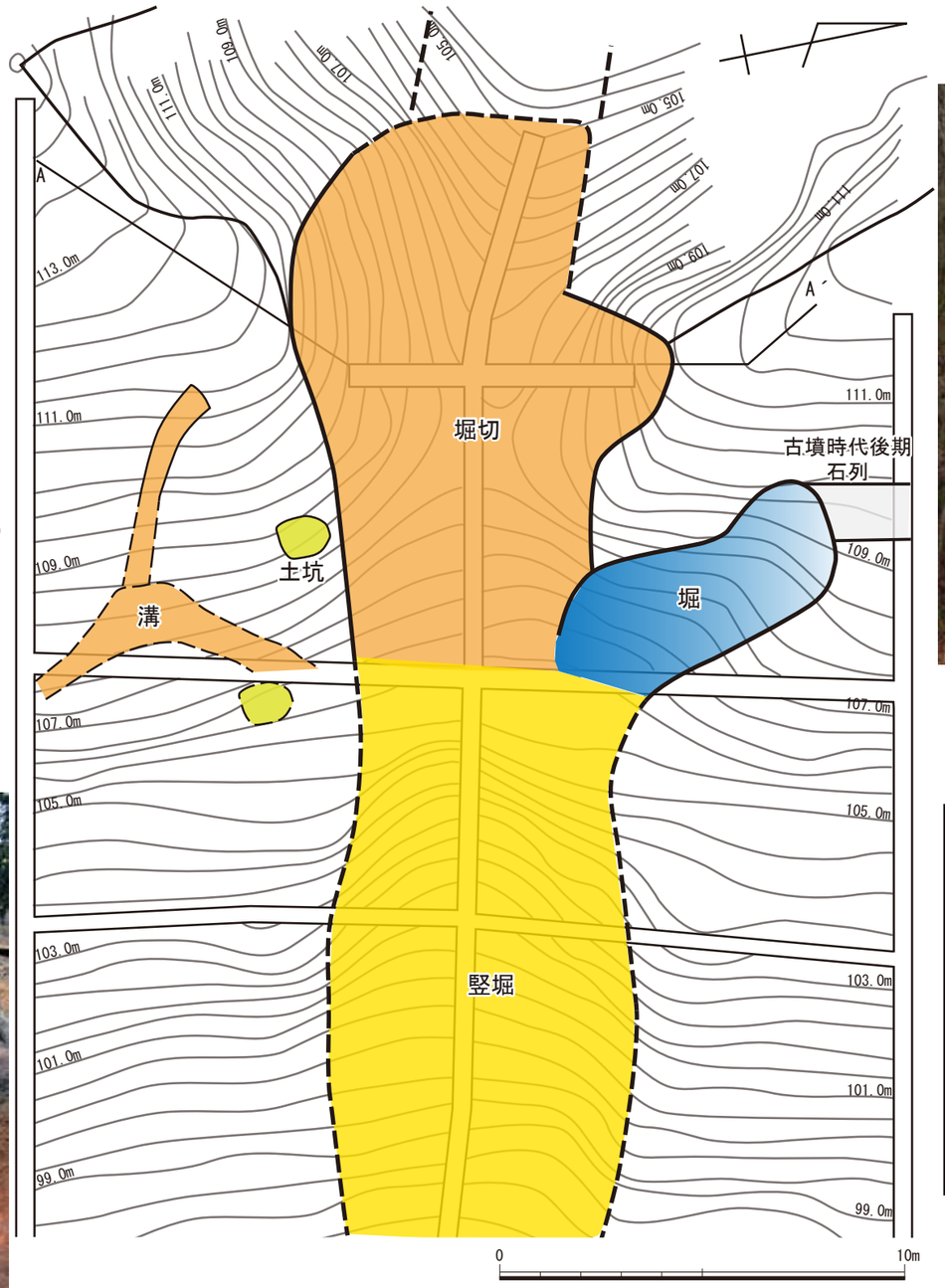


図２　堀切・竪堀等遺構概略図

堀切（ほりきり）

尾根を伝って侵入する敵に対して、尾根を分断して足止めさせる意図を持つ施設です。

- 長　さ：約13.5m
- 幅　：最上部で約9.0m、基底部で約7.0m
- 深　さ：約3.0m
- 断面形：箱形
- 特　徴：尾根を垂直に切断しています。傾斜角はかなり急で、底面に段差があり、凸凹しています。

堀切・竪堀（調査状況）

竪堀（たてぼり）

斜面を伝って侵入する敵に対して足止めさせる意図を持つ、等高線に対して直角方向（縦方向）に掘られた堀です。

- 長　さ：約14.0m以上
- 幅　：約7.5m
- 深　さ：約3.0m
- 断面形：南側が階段状になる
- 特　徴：堀切の末端から始まり、東側斜面にかけて形成されています。堀切同様に、底面には段差を設けています。竪堀の両側に若干の高まりがありましたので、土塁を設けていた可能性もあります。また、調査区外の西側斜面にも竪堀の痕跡が認められます。